

岡本 恵

還暦に贈る真っ赤なスニーカー
 生きているだけで私も冒険家
 病名をもらい病気になっていく
 言葉より重い無言に責められる
 悲しくて泣けるならまだ大丈夫
 更年期お手やわらかに願います
 さようなら私の子どもだった君
 ためらいもなく割っている生卵
 心から心配をして嫌われる
 自転車は前向きにしか走らない

消されてる文字はのぞいてみたくなる

気の毒な話のまわり人ばかり

白衣着た人の言葉は気にかかる

抱きしめてこわしてしまいうぬいぐるみ

手のひらを見せてしまったのは一人

くださいな心の風邪に効く薬

思い出をたつぷり食べて元気です

粗筋に書けぬ部分がおもしろい

先生にやる気ばかりをほめられる

だいじょうぶ雨のち晴れははずれない

清らかに濁るわたしの水彩画

旅人と職業欄に書いておく

川柳・人と句「人」

青砥たかこ

はじめまして、はじめまして
 なんの肩書きもなくてちよつぷりはずかしい
 …でもそれが私の一つしかないホコリ？ まわりの人から何と呼ばれているかという「トンチンカン」それってけつしてほめ言葉じゃあないですよね。でもちよつぷり気に入っていたりしてそこから生まれる一句が偶然出会ったどこかの誰かさんに届いてくれるかなあとハラハラどきどきソワソワわくわく…

新しい出会いよどんな花が咲く めぐみ

新葉館「岡本恵ブログ」今から三年ほど前の立ち上げの言葉である。

この日からほぼ五日おきにきちんと更新され、毎回押すな押すなの大盛況、一人一人のリアクションへ、丁寧なその人のエピソードを交えたお返しのコメントは私の知る限りでは秀逸であると思う、

めぐみさんとは直接お会いしたことはない。ただなぜかずっと旧知の気がしていた。「オール川柳」時代からずっとかさず投句をしておられ、「川柳マガジン」第8回の川柳マガジン文学賞に輝かれた。

副賞の折り紙サイズの可愛い句集のタイトルは「かみさまのいうとおり」人生の波に逆らわず、自分らしさを失うことなく素直に生きる、めぐみさんらしいタイトルである。

聞くところによると、句集やブログの写真はご主人作とか。優しさがこもっているのが分かる。
 めぐみさんの好きなもの「図書館」「早起き」「郵便屋さん」と句集のプロフイルにある。実に「らしい」

めぐみさんの本日のブログ（六月二日）はこの句がピッタリの内容で盛り上がっている。実はめぐみさんの誕生日なのである。

見え過ぎるから半眼の仏さま
 NHK学園全国川柳大会での大賞作品、神さま、仏さまととても仲良し、めぐみさんはおばあちゃん子だったのかなと思ってしまう。

ほんとうのわたしは映らない鏡
 鏡に映っているのは誰？ありふれた言葉で深いことを詠まれている。

美しい文字美しい人だろう

ブログは詩に近いエッセイで綴られ、最後に必ず一句添えられている。エッセイにちりばめられた宝石のような言葉は、感性の豊かさを証明している。一度お便りを頂いたが、美しい文字だった。美しい人に違いないと確信をした。

丸木橋ひとりでないと思えない

裏を返すと、相手への優しさが見える。気を遣って気を遣って疲れてしまうなら一人で渡りたい、丸木橋。

育児書の中に私の子はいない

三人のお子さんを、伸び伸び育てられた。昨年続けてお孫さんがお生まれになった。目の前を夢中で生きる今が好き

今が大切。幼子も時も待つてはくれない。繰り言をつめても瓶は透き通る

めぐみさんのブログは、常連さんも多いが、初めてさんも、お久しぶりさんも、誰に対しても同じように接してもらえる。私も含めて、自分のことを書いて勝手に癒される部分もある。

だいじょうぶ雨のち晴れははずれない
 めぐみさん、これからもよろしくね。